

県内ワイド

情報

元気よ、届け

日赤県支部・被災地便り



日赤県支部長
山本裕行さん

混乱している被災地で被災地に入っている血。すぐさま119番では、予期しない場面遭遇する確率も上が

近頃の建物の残骸

予期せぬ場面遭遇

息子さんその旨を、何度も「ありがとへ。途中、ハンズフリーを下げ、母親と一緒にのイヤホンマイクを石巻赤十字病院へと向かって携帯電話で連

臨機応変なチーム誇り

私が被災地で、役場の医療本部に向かつて一人で車を走らせていた時のこと。前を走る車が急に止まった。驚いて急ブレーキをかけると、前の車の助手席ドアが開き、乗っていた高齢の女性が地面に血を吐き出した。

私は医師でも、救急隊員でもない。でも、医療救護班の一員とし

運転席の息子さんや、避難所から役場へ絡。五分ほどして到着

は、どうしたら良いの向かったおおよその距離すると、すでに医師ら

か分からない様子。女離などから場所を伝えが準備して待っていて

性本人に「どうしましたか？大丈夫ですかまで四十分ほどかかし、山岸瑞希医師が声

いと判断した。避難所勇一救護班主事は、息まで搬送することも考

えたが、山の上にあるからの状態などを確認避難所まで曲がりくね

った山道を走る負担を素早い対応に、息子考え、ここまで私が医

師を連れてこようと決た。その二十分後、救急隊が到着。息子さん

は、何度も「ありがとへ。途中、ハンズフリーを下げ、母親と一緒にのイヤホンマイクを石巻赤十字病院へと向



突然、吐血した女性を搬送するため、救急隊と協力して処置する救護班のメンバー。4月15日、宮城県石巻市雄勝地区で(日赤県支部提供)

通常、発災直後は主に外科系、その後は内科系の医師が救護班要員として派遣される。日赤救護班は、医師一人、看護師長一人、看護師二人、主事二人の六人を基本としている。看護師の一人は、助産師の資格も持つ。福井の場合、福井赤十字病院の野口正人院長も重要となる。私は「チーム日赤福井」を

も同行させていることから、医師二人が救護所と巡回診療に分かれて同時に対応することが可能となっている。さらに今回の災害では、薬剤師も要員に加えて医師の負担を軽減。被災地までの道のりが長いこともあり、救急車両を運転する主事をカバーするため、第三班からは放射線技師や検査技師、ボランティアなどが運転要員として加わった。

被災者のために円滑な救護活動を行うこと。特に、混乱が続く現状では、迅速で臨機

応変な対応が求められる。これに処置できるチームづくりには、参加する要員はもちろ

ん、送り出す側の理解も重要となる。私は

「チーム日赤福井」を誇りに思っている。